

# ECO VISION 2040

岡山県環境基本計画  
エコビジョン2040

## 第5章

### 計画の進め方

# 1 推進体制

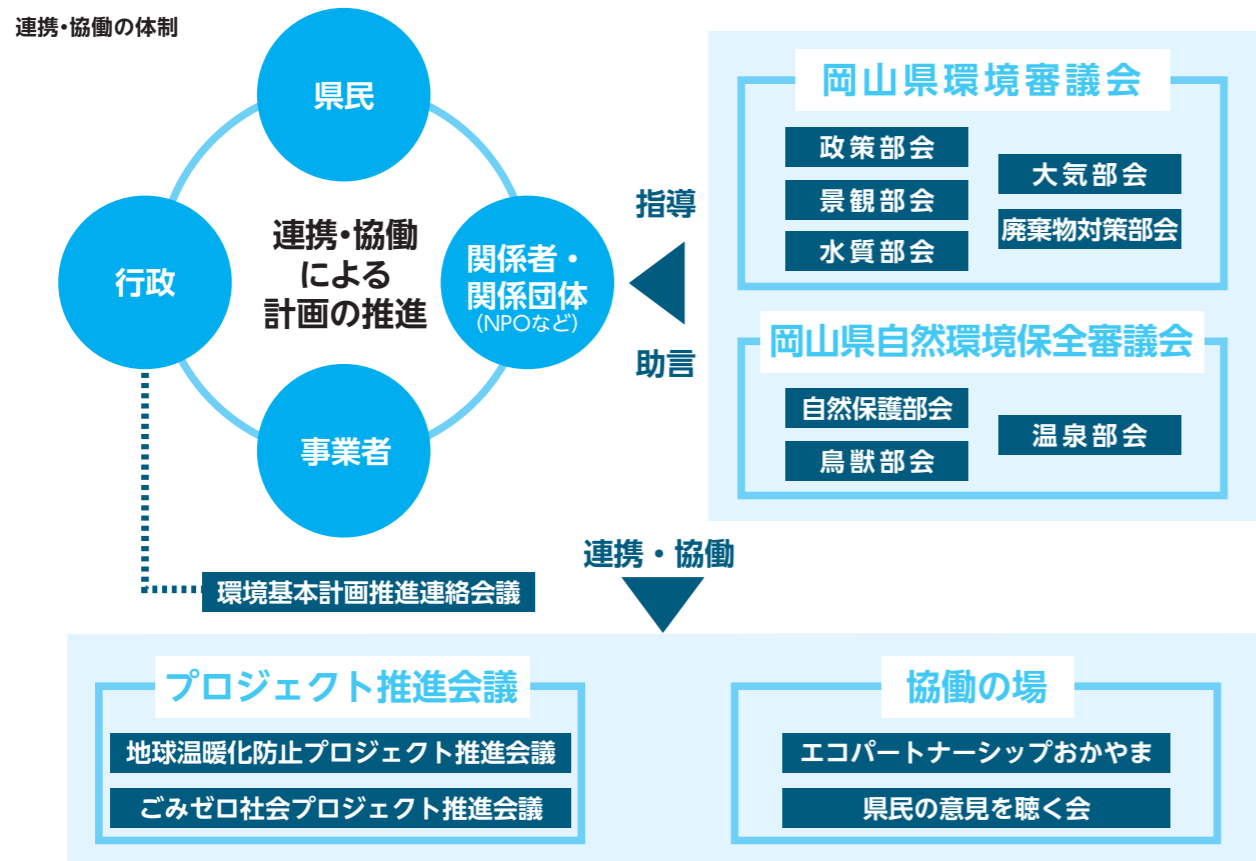
## (1) 連携・協働の体制

県民、事業者、関係者・関係団体、行政などあらゆる主体が一体となり、目的や目標だけでなく、成果と課題も共有するとともに、関係団体間のネットワーク化も図りながら、“参加と協働”により計画を推進します。

そのため、県民、NPOなどの各種団体、事業者等の参加のもとで意見交換を行う会議を定期的に開催するとともに、本計画に基づく取組のうち、県民や事業者、有識者、行政等が特に緊密な連携のもとに取り組むべき「地球温暖化防止」「ごみゼロ社会づくり」などについては、関係者により構成されるプロジェクト推進会議\*を中心に、強力な推進を図ります。

また、ますます複雑化・多様化する環境問題に対応するため、県庁内の部局横断組織である「環境基本計画推進連絡会議\*」などを通じて部局間の連携・調整を図り、行政のあらゆる分野の施策・事業において環境への配慮がなされるよう、本計画の進捗状況等を共有しながら、関連施策を推進していきます。

さらに、有識者等からなる「岡山県環境審議会\*」の「政策部会」において、高度で専門的な立場から、本計画に掲げる施策・事業の進め方や進捗状況等について助言等をいただきながら、総合的かつ計画的に推進します。



エコパートナーシップおかやま：県民団体・事業者団体・市町村・県の協力体制のもと、県民総参加で環境保全活動を積極的に推進することを目的とした会  
 県民の意見を聴く会：県民・事業者・行政が一体となり、計画の目標・成果・課題等について共有し、協働しながら計画を推進していくため、県民・事業者・行政が意見交換を行う会

## (2) 進捗管理と継続的改善 ～「短期的な取組」の推進～

### ●PDCAによる管理

計画の推進に当たっては、Plan(計画)、Do(実施)、Check(確認・評価)、Action(見直し)のサイクルに沿って、取組の進み具合や数値目標の達成状況等を確認するとともに、岡山県環境審議会の意見等を踏まえた見直しを随時行い、実効性を確保します。

### ●毎年度の公表

上記による確認・評価の結果は、毎年度、岡山県環境白書\*や県のホームページ等を通じて広く公表します。

公表に当たっては、県の取組の状況や成果が、できるだけ分かりやすく伝わるよう、内容のまとめ方や掲載の仕方について工夫を図ります。

### ●状況に合わせた改善

毎年度の確認・評価を踏まえ、また、環境保全に係る新たな課題等に応じ、適宜修正を加えるなど、改善を図りながら取組を進めます。

また、感染症の流行・拡大など、社会・経済全般に大きな影響を及ぼすような情勢の変化により、取組の推進に支障が生じる事態となった場合、あるいは、画期的な研究開発・技術革新により、取組の進め方や手法が大きく変わるような場合は、その状況を見極めながら、計画に掲げた取組や指標を見直すなど、柔軟に対応します。

## (3) 計画の見直し ～「長期的な視点」の中間評価～

長期的な視点による目標年次(令和22(2040)年頃)の中間地点となる令和12(2030)年を目途に、地球温暖化の状況や環境保全に関する国内外の動き、政策の方向性など、取り巻く情勢や社会の変化等について確認を行います。

その上で、必要な場合は、岡山県環境審議会にも諮りながら、長期的な視点も含め計画全般について見直すなど、適切に対応することとします。



## 2 取組の内容に応じた実施方法等の工夫

計画に位置づけた取組の実施に当たっては、それぞれの取組が、趣旨・目的に沿って、より効果的に進められるよう、実施の形式や手段等について、従前のやり方にとらわれず、柔軟な発想で工夫するよう努めます。

具体的には、デジタル化の進展や、感染症対策としての「新しい生活様式」の普及・定着も踏まえ、インターネットを活用した行事・イベントの開催など、取組の内容や参加者・対象者に応じた様々な手段や媒体を積極的に採り入れることを、取組ごとに検討します。



# ECO VISION 2040

岡山県環境基本計画  
エコビジョン2040

参考資料